

デイケアにて

森安 萬亀子

「あら、森安さん。お化粧しとるん？ 口紅つけとるが」

週3回通っている高齢者向けのデイケア施設で言われた。ここは運動機能回復ケアで入浴、昼食（7品デザート付）、カラオケ、朗読など充実した施設である。

入所者は65歳〜100歳の男女である。介護度によって通所回数、曜日は異なるが皆、顔なじみ。おしゃべりもする。

先日、私は美容院に行った。帰宅後わが家の洗面所の鏡を見ると見たことのない老女が映った。

「あんた誰？ 誰でしょう」実は私の顔。美容院では若々しく映っていたのに。どうやら美容院の鏡はうぬばれ鏡らしい。

「私はいつもこの顔？」嫁が気の毒そうにうなずく。あ然というより驚愕に近い。

よし化粧をして若返ろう。20年前に使用していた化粧品箱をかきまぜ、復活を始めた。最初の言葉はその日の厚化粧を見た友人の言葉である。

他人の化粧に気が付くことは、多少関心があり、羨望（せんぼう）の気もあるのではないか。「今朝はべっぴんじやろう」と私が褒め言葉を催促する。

嫁が髪飾りを買って来てくれた。「お母さんは光り物がお好きだから」

ピカピカ物で私は気に入った。髪へ止めて施設へ行く。おば様連中が寄ってきて「きれい。高かろう。ダイヤみたい。どこでこうたん？」など言ってくれる。

「4個セットで百均で売つとんじやつてー」と私。「なんなら！25円じゃが」と割り算をした人が一人いた。

ある日、Mさんから相談を受けた。「あんた、赤い靴履いとるじやろ。私も欲しんじやけど、おとうさんがこうてくれん」「赤い靴履いとつたら異人さんに連れて行かれるからおとうさんは買いたくないんじやろー」と私。昭和の童謡「赤い靴」の例えはMさんには難しかったかな。

男性との会話も楽しい。男たちはあまり話さないが囲碁・将棋とかの話はする。「私碁も将棋もできるよ。五目並べだけど」「なんならそりゃ」と笑う。

「碁の七冠すごいね」と井山名人の話で仲良くなる。農家のKさんとはT P Pの話をする。

ボーイフレンドは7人。94歳の私は知ったらしく話をし若く見せている。

Nちゃんに「あんた、ほんまの年はなんぼなら？ 会うたびに若うなる」と言われた。両手でハイタッチしてデイケアから帰った。

「萬亀子よ。もって瞑（めい）すべき」かな。

（もりやす・まきこ）岡山県エッセイストクラブ会員、岡山市在住） 毎日新聞 2017年1月7日掲載